

## Uターン

八戸市→埼玉県→八戸市

八重倉 幸子さん

まちの茶屋  
しゃべるばあ~  
(飲食・惣菜)

2021年2月創業



Case 07

# 食を通して人が集い 気軽に語らう憩いの場に。

定年退職をきっかけに、故郷・八戸に暮らす高齢の母を介護するためUターン。  
第二の人生で始めたのは、ご近所さんが語らう憩いの食堂。

## 定年退職のその先

八戸市の郊外にある「まちの茶屋しゃべるばあ~」では、朝カレーとランチ、惣菜の販売を行っている。メニューは懐かしい郷土料理から家庭料理、洋食や中華まで多種多様。お客さんの意見を取り入れて新しいメニューも開発する。

店主の八重倉幸子さんは大手食品化学メーカーに勤め、調味料・メニュー開発に携わってきた。調理師免許や食育インストラクターなど、食に関わるさまざまな資格を持つ。Uターンを決めたのは定年退職を迎えた年。これからは地元・八戸にいる高齢の母のそば

で過ごそうと考えた。東京・有楽町にある青森暮らしサポートセンター（あおぐら）を訪ねて情報収集をしていた八重倉さんは、八戸のUターンセミナーに参加。その場で出会った八戸商工会議所のスタッフに創業について相談した。

## 地に足のついた 創業サポート

「当初は山遊びの施設をやりたいなと思っていたけど、今までの経験を活かした方がいいとアドバイスを受けた。続けられる事業計画を立てなさいって、支援担当者は親身になってくれる分、厳しいのよ」

相談の結果、長く身を置いた

食のジャンルでの創業になった。飲食店をやるならと集客が見込める立地を勧められたが、移住の目的には高齢の母を支えることもあったので、店舗は実家の近くと決めていた。創業支援の過程で経理やマーケティングの手法も教わり、SNSでの情報発信やリサーチなどを積み重ねて営業に反映させている。

## ご近所の交流が 生まれる場所に

店がある八幡地区は、かつて多くの商店が軒を連ね買い物客で賑わっていたが、今は数が減って歩く人もまばら。高齢者は買い物のために遠くまで出なくてはな

## 誰かの役に立ちたい



くわしくは動画をチェック!!



店内の内装も八重倉さんが自分で行う。メニューのフレームは古い障子戸を活用

らず、ご近所同士の交流は希薄になりつつある。「しゃべるばあ~」が賑わいの創出につながり、地域の活性化の一助となればと八重倉さん。その時期旬の食を大切にし、四季を感じる郷土料理を楽しめば会話に花が咲く。ふらっと入ってきた若者が料理を口にして、こんな食べたことがないと感じてくれたこともあった。「デパートのおせち料理と地元の正月料理は違うじゃない。郷土

料理はお年寄りが懐かしがってくれるし、若い人が伝統食に触れる機会になる」  
店が人をつなぎ、食文化を伝える場所になっている。  
生活が一段落すると誰もが人生の曲がり角を意識するが、やりたいことをやらなかったことを後悔したくない。  
「親の介護のために帰ったとは思っていない。私は自分のために帰ってきた」

## 八重倉さんの創業まで

2019年4月  
定年退職

8月「あおぐら」で  
あおもり移住倶楽部に入会

2020年7月  
店舗物件を決定

8月  
八戸商工会議所に相談

2021年2月  
まちの茶屋  
しゃべるばあ~創業

## 支援機関担当からの一言

八重倉さんにとって最優先すべきは実家近くでの開業でした。生まれ育った頃のような活気があった街を戻したいと、地域の活性化につながるような店づくりという強い思いを理解しながら面談を重ね、1日の集客数をより慎重に検討し創業計画を進めました。料理の種類の豊かさを強みとして、地域に愛されるお店を目指してもらいたいと思っています。

60・70代はまだヒヨッコよ、と八重倉さん。自身を振り返り、創業を考える同世代にエールを送る。

## インフォメーション



まちの茶屋 しゃべるばあ~  
八戸市八幡字五日町 22-3